

2020年度 大学職員情報化研究講習会発表

①教育改革

オンライン教育における
教員のICTスキル向上

グループNo.3

コロナ禍における現状の課題

- 出席管理システム（学生証を使用する）
- 学生への連絡手段
- 遠隔授業における試験の実施方法
- 遠隔授業が中心となる中での大学の存在意義
- オンライン下での学生の精神面のケア
- 学生・教職員以外の団体へのオンラインサポートについて
- 少子化への対応
- 教員のICT活用のスキル
- コロナの影響により、通信制大学に近づいている

それぞれの形式のメリット・デメリット

	メリット	デメリット
オンライン	<ul style="list-style-type: none">・自分のペースで学習出来る	<ul style="list-style-type: none">・実験、実習の機会はない・一方向型の授業・受講生どうしの交流の機会は少ない。
対面	<ul style="list-style-type: none">・実験、実習の機会の提供・双方向型の授業・交流の場の提供（学生どうし、教員）	<ul style="list-style-type: none">・コロナ禍のような緊急時は通常通りの授業が出来なくなる可能性がある。

オンライン化に対する学生の意見

- ・フィードバックがない授業はいいと思わない
- ・友達が作れない、交流の場の消失

- ・想像していたよりも良かった
- ・何度も復習して自分のペースで学習できる
- ・対面よりも、オンライン（チャットやメール含む）のほうが質問がしやすかった
- ・横のつながりは対面のほうがあると思うが、オンラインでは縦のつながりを作りやすかった

→オンラインによって改善した点も複数ある

オンライン化に対する教員の意見

- オンライン授業の経験がないのでゼロからのスタート
- 資料の作り替えが必要になった
- 授業の準備時間が増えた

一方…

- オンライン授業を継続することに抵抗がない教員もいる
- 学生の理解度が深まった

これからの大学に求められることは？

対面形式とオンラインのメリット・デメリットを認識し、双方の良さを組み合わせてハイブリット型の大学にしていくことが必要。

課題：

- ・ オンライン授業の質を上げること。
- ・ 教員のICTスキルが足りず、その知識・技能の向上が必要とされている。

具体的な解決策

教員の負担を軽減するために・・・

- ・ 講習会を開催（オンデマンド形式にし、いつでも視聴が可能）
- ・ マニュアルの整備
- ・ 教員サポートのワーキンググループを作る
（マニュアル作成、HPにアップロード）
- ・ ツールを一本化して、職員が教員のサポートを出来るような体制づくり

→実施の結果、不十分にも関わらず業務量は増大した。

今後に向けて

- ・ 大学職員が大学を超えたサポート体制を構築していく。

限られた資源を共有する

「大学」全体のオンライン授業の質を向上させるため、
大学どうしが相互協力するための体制を準備する。
大学院生も巻き込み、交流の場所を作る
2～3年の期間をかけて実行していく。

大学どうしが相互協力するための体制

- 大学どうしでサポートができる体制を用意



メリット

- ①大学を超えた人との交流（大学院生、職員）
- ②教育者としてのICTスキルが身につく（大学院生）
- ③負担の軽減（職員、教員）